

物理学入門 第5回 単振動 I

2020年6月12日 担当：佐藤 純

問題 1 t の関数 $x(t)$ に対する以下の微分方程式の一般解を求め、与えられた初期条件のもとに積分定数を決定せよ。ただし、 $\ddot{x} = \frac{d^2x}{dt^2}$, $\dot{x} = \frac{dx}{dt}$ とする。

(1-1) $\ddot{x} - 4x = 0$ 初期条件： $x(0) = 3$, $\dot{x}(0) = -6$

定数係数の線形微分方程式なので、指数関数型の解

$$x(t) = e^{\lambda t}$$

を仮定する。これを微分すると

$$\dot{x}(t) = \lambda e^{\lambda t}, \quad \ddot{x}(t) = \lambda^2 e^{\lambda t}$$

となる。これを微分方程式に代入すると、

$$\lambda^2 e^{\lambda t} - 4e^{\lambda t} = 0,$$

$$e^{\lambda t}(\lambda^2 - 4) = 0,$$

$$\lambda^2 - 4 = 0,$$

$$\lambda = \pm 2$$

を得る。ここで、 $e^{\lambda t} > 0$ であることを使った。

これを $x(t) = e^{\lambda t}$ に代入して、2つの特解

$$x(t) = e^{2t}, e^{-2t}$$

を得る。よって、この微分方程式の一般解は

$$x(t) = Ae^{2t} + Be^{-2t} \quad (A, B \text{ は積分定数}) \quad (1)$$

となる。初期条件から、積分定数 A, B を決定する。まず、

$$x(0) = A + B = 3$$

である。次に、

$$\dot{x}(t) = 2Ae^{2t} - 2Be^{-2t}$$

より、

$$\dot{x}(0) = 2(A - B) = -6, \quad A - B = -3$$

である。以上より、

$$A = 0, B = 3$$

を得る。したがって、 $x(t) = 3e^{-2t}$ となる。

(1-2) $\ddot{x} + 9x = 0$ 初期条件: $x(0) = 0, \dot{x}(0) = 6$

定数係数の線形微分方程式なので、指数関数型の解

$$x(t) = e^{\lambda t}$$

を仮定する。これを微分すると

$$\dot{x}(t) = \lambda e^{\lambda t}, \quad \ddot{x}(t) = \lambda^2 e^{\lambda t}$$

となる。これを微分方程式に代入すると、

$$\lambda^2 e^{\lambda t} + 9e^{\lambda t} = 0,$$

$$e^{\lambda t}(\lambda^2 + 9) = 0,$$

$$\lambda^2 + 9 = 0,$$

$$\lambda = \pm 3i$$

を得る。ここで、 $e^{\lambda t} > 0$ であることを使った。

これを $x(t) = e^{\lambda t}$ に代入して、2つの特解

$$x(t) = e^{3it}, e^{-3it}$$

を得る。

よって、この微分方程式の一般解は

$$x(t) = Ae^{3it} + Be^{-3it} \quad (A, B \text{ は積分定数}) \quad (2)$$

となる。あるいは、オイラーの公式を使って指数関数を三角関数に直すと、

$$\begin{aligned} x(t) &= Ae^{3it} + Be^{-3it} \\ &= A(\cos 3t + i \sin 3t) + B(\cos 3t - i \sin 3t) \\ &= (A + B) \cos 3t + i(A - B) \sin 3t \\ &= C \cos 3t + D \sin 3t \quad (C, D \text{ は積分定数}) \end{aligned} \quad (3)$$

となる。ただし、 $C = A + B, D = i(A - B)$ とおいた。

上の(1)式と(2)式は等価であり、どちらを使ってもよいが、初期値問題を解く際には(2)式の方が楽なことが多いので、以下の問題では断りなく(2)式の形に書き換えることもある。

初期条件から、積分定数 C, D を決定する。 $x(0) = C = 0$ なので、

$$x(t) = D \sin 3t$$

となる。

これを微分すると $\dot{x}(t) = 3D \cos 3t$ となる。

$\dot{x}(0) = 6 = 3D$ なので、 $D = 2$ となる。

したがって、 $x(t) = 2 \sin 3t$ を得る。

(1-3) $\ddot{x} + 4\dot{x} + 13x = 0$ 初期条件 : $x(0) = 0, \dot{x}(0) = 12$

定数係数の線形微分方程式なので、指数関数型の解

$$x(t) = e^{\lambda t}$$

を仮定する。これを微分すると

$$\dot{x}(t) = \lambda e^{\lambda t}, \quad \ddot{x}(t) = \lambda^2 e^{\lambda t}$$

となる。これを微分方程式に代入すると、

$$\begin{aligned}\lambda^2 e^{\lambda t} + 4\lambda e^{\lambda t} + 13e^{\lambda t} &= 0, \\ e^{\lambda t}(\lambda^2 + 4\lambda + 13) &= 0, \\ \lambda^2 + 4\lambda + 13 &= 0, \\ \lambda &= -2 \pm \sqrt{2^2 - 13} = -2 \pm 3i\end{aligned}$$

を得る。ここで、 $e^{\lambda t} > 0$ であることを使った。

これを $x(t) = e^{\lambda t}$ に代入して、2つの特解

$$x(t) = e^{(-2+3i)t}, e^{(-2-3i)t}$$

を得る。よって、この微分方程式の一般解は、 A, B を積分定数として

$$\begin{aligned}x(t) &= Ae^{-2+3it} + Be^{-2-3it} \\ &= Ae^{(-2t)+(3it)} + Be^{(-2t)+(-3it)} \\ &= Ae^{-2t}e^{3it} + Be^{-2t}e^{-3it} \\ &= e^{-2t}(Ae^{3it} + Be^{-3it})\end{aligned}$$

と書ける。あるいは、オイラーの公式を使って指数関数を三角関数に直すと、

$$\begin{aligned}x(t) &= e^{-2t}(Ae^{3it} + Be^{-3it}) \\ &= e^{-2t}[A(\cos 3t + i \sin 3t) + B(\cos 3t - i \sin 3t)] \\ &= e^{-2t}[(A+B)\cos 3t + i(A-B)\sin 3t] \\ &= e^{-2t}(C \cos 3t + D \sin 3t) \quad (C, D \text{ は積分定数})\end{aligned}$$

となる。ただし、 $C = A + B, D = i(A - B)$ とおいた。

初期条件から、積分定数 C, D を決定する。 $x(0) = C = 0$ なので、

$$x(t) = De^{-2t} \sin 3t$$

となる。これを微分すると

$$\begin{aligned}\dot{x}(t) &= D(e^{-2t})' \sin 3t + De^{-2t}(\sin 3t)' \\ &= -2De^{-2t} \sin 3t + 3De^{-2t} \cos 3t\end{aligned}$$

となる。 $\dot{x}(0) = 12 = 3D$ なので、 $D = 4$ となる。

したがって、 $x(t) = 4e^{-2t} \sin 3t$ を得る。

問題 2 バネの一端に質量 m のおもりを付け、滑らかな机の上に置いて、他端を固定する。おもりを引っ張ってバネを a だけ伸ばし、 $t=0$ におもりを静かに離れたとする。おもりを引っ張る方向に x 軸をとり、バネのつり合いの位置を $x=0$ とする。バネ自身の質量は無視し、バネ定数を k とする。

(2-1) おもりの運動方程式を立てよ。

バネがおもりに及ぼす力は $-kx$ と書けるので、運動方程式は

$$m\ddot{x} = -kx$$

となる。

(2-2) 指数関数型の解 $x(t) = e^{\lambda t}$ を仮定し、 λ に対する方程式を導け。

$x(t) = e^{\lambda t}$ を運動方程式に代入すると、

$$m\lambda^2 e^{\lambda t} = -k e^{\lambda t},$$

$$m\lambda^2 = -k$$

と、 λ に対する二次方程式が得られる。

(2-3) 上で求めた方程式から λ を決定し、運動方程式の一般解を求めよ。

上で求めた二次方程式を解くと、

$$\lambda = \pm i\sqrt{\frac{k}{m}} = \pm i\omega$$

となる。ただし、 $\omega = \sqrt{\frac{k}{m}}$ とおいた。

これを $x(t) = e^{\lambda t}$ に代入して、二つの基本解 $x(t) = e^{i\omega t}$, $e^{-i\omega t}$ が得られる。よって、一般解はこれらの線形結合で、

$$\begin{aligned} x(t) &= Ae^{i\omega t} + Be^{-i\omega t} \\ &= A(\cos \omega t + i \sin \omega t) + B(\cos \omega t - i \sin \omega t) \\ &= (A + B) \cos \omega t + i(A - B) \sin \omega t \\ &= C \cos \omega t + D \sin \omega t \end{aligned}$$

となる。ただし、 $C = A + B$, $D = i(A - B)$ とおいた。

(2-4) 運動方程式の初期条件 $x(0)$, $\dot{x}(0)$ を決定せよ。

$$x(0) = a, \quad \dot{x}(0) = 0$$

(2-5) 上で求めた初期条件をもとに、時刻 t におけるおもりの位置 $x(t)$ を求めよ.

$$x(0) = a = C \cos 0 + D \sin 0 = C$$

より,

$$C = a$$

を得る. また,

$$v(t) = -C\omega \sin \omega t + D\omega \cos \omega t$$

より,

$$v(0) = 0 = D\omega \cos 0 = D\omega$$

より,

$$D = 0$$

を得る.

したがって,

$$x(t) = a \cos \omega t$$

となる.

(2-6) 時刻 t におけるおもりの速度 $v(t)$ を求めよ.

$$v(t) = -a\omega \sin \omega t$$